

I 実践

1 研究主題

互いを認め合い、思いやりや助け合いの心を育てる人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

学校周辺には、泉前遺跡や「常陸の国風土記」に記されている泉が森など史跡が多い。地域の人々は、地域の歴史に誇りをもち、「水木ささら」の継承に取り組むなど伝統を大切にする気持ちは強い。

児童は、明るく活発であるが人と積極的に関わっていくことは苦手である。児童の中には、自分の気持ちや考えをうまく表現できない子や友だちとの関係を上手に築いていけない子が見られる。また、東日本大震災により、校舎が大きな被害を受け、現在建設中である。そのため、仮設校舎と新館校舎の2分散型の学校になっている。教育活動が制限されることもあり、限られた環境で児童は行事や学習に精一杯取り組んでいる。地域の方々や保護者からは、思いやりを持ち、将来、地域の方々と助け合える児童の育成を願う声が多い。

そこで教育活動全体を通して、一人一人がお互いの良さを認め合い、尊重し合える態度を育てたいと考え本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア セルフエスティームを高める活動
- イ 人権意識を育む体験活動
- ウ 地域の行事への参加
- エ 道德教育の充実

2 実践内容

(1) セルフエスティームを高める活動

本校の重点目標に「すべての教育活動を通してセルフエスティーム（自己肯定感）の育成に努める」がある。セルフエスティームを高められなくては、自分の良さに気づくこともできず、また、友だちの良さを認めることもできない。人権意識を育てるためにも大切である。

ア いじめ0運動

「いじめ」で傷つきセルフエスティームを低下させないために全学級が参加して行う。学級では、いじめをなくすためには、どうしたらよいか一人一人が意見を出し合い、学級全体で話合っていじめをなくすための考えをメッセージにまとめる。

その後「いじめ0集会」を実施して全校児童に学級の考えを伝える。スローガンを考えて発表する学級、劇を演じて「いじめ0」を訴える学級などアピールの仕方は様々でどれも心に残り、いじめを訴える方法としては効果が大きい。



イ 一人一人を大切にする学級経営

学級の間人関係の向上のためにQ Uテストを実施している。また、一人一人を理解するために教育相談を実施したり、友達の良さを知らせるために友達に感謝を伝える「ありがとうの木」を実施したりするなど工夫した学級経営を行っている。

(2) 人権意識を育む体験活動

ア のびのびタイム（縦割り異学年交流）

ロングの昼休みを月に1回程度設定し、1年から6年まで縦割り班で遊び交流する。現在は、新館校舎（2年、3年、6年）と仮設校舎（1年、4年、5年）に分かれ、それぞれ8班を構成してドッジボールや大縄、リレー、鬼遊び、昔遊びなどを実施している。6年生や5年生が班長になり、事前に会議を実施して遊ぶ内容を決めている。

班では、自己紹介、整列の仕方、遊び方などを高学年が下級生に優しく言葉をかけて指導している。普段は外遊びが苦手な子どもたちも時間を忘れて交流する姿が見られる。

イ 高齢者疑似体験・アイマスク体験・車いす体験（4年総合的学習の時間）

水木交流センターの体育館を会場に社会福祉協議会の皆さんを講師にお迎えし、高齢者疑似体験、アイマスク体験、車いす体験を全員が行った。高齢者疑似体験コーナーでは、社会福祉協議会の皆さんからサポーターの付け方を教えていただき、実際に階段の上り下りを体験して、高齢者の行動が自分たちと違って制限されることを学んだ。アイマスクのコーナーでは、目



の不自由な方の立場に立って道案内をする難しさを学んだ。車いすのコーナーでは、少しの段差でも車いすを動かすことが難しく、苦戦する児童が多かったが社会福祉協議会の皆さんから動かし方を教えていただき、全員が自分で車いすを動かすことができた。これからは体の不自由な方の役に立ちたいという感想をもったようだ。

ウ 盲導犬体験・点字体験（4年総合的学習の時間）

盲導犬と生活する方を講師に迎えて、盲導犬との生活の様子や盲導犬に接するときに気をつけることなどのお話をうかがった。その後、盲導犬がどのように道案内をするかを体験した。

講師の方へ感謝の手紙に書き、それを点字に打って届けた。目の不自由な方にとって盲導犬や点字が生活の一部になっていることを体験することができた。

エ 民泊家庭との交流（5年総合的学習の時間）

2学期に宿泊学習でお世話になる民泊家庭の方々とは、1学期からファクスや手紙を通して交流を続け、宿泊学習終了後も感謝の気持ちを綴ったお礼の手紙、かかし祭りへの参加、クリスマスカードや年賀状、文集の送付というように年間を通して交流を深めている。民泊家庭の方々からも返事が届き、心の通ったやりとりになっている。



(3) 地域の行事への参加

9月の敬老会に2年生と5年生がお祝いの言葉発表、4年生が「水木っ子ソーラン」の発表で参加、10月の水木秋祭りに3年生が「水木っ子ソーラン」の発表で参加して地域の方々と交流を深めている。

(4) 道徳教育の充実

一年間を通して全学級が道徳の授業を授業参観日に公開している。また、人権メッセージを夏休みの課題として取り組むことで、家庭で人権について話し合ったり、親子で人権メッセージを考える機会をもったりして人権教育への理解・啓発を図っている。

3 研究の成果

- ・「いじめ0集会」の後、学級で決めたメッセージやスローガンを教室や廊下に掲示して朝の会や帰りの会で皆で読み上げて約束を確認する学級が多かった。児童にいじめを見過ごさない、いじめを許さないという約束を守ろうとする気持ちが高まった。
- ・各学級とも1・2学期に児童全員と面談を実施して、一人一人のよさや頑張りを認め励ますことができ、自己肯定感が高まった。
- ・縦割り異学年活動（のびのびタイム）では、下級生に思いやりの心で接する姿や児童主体で遊びを進める中で、進行が滞っても自分たちで助け合って改善していく姿が見られた。児童の中には、友達の輪の中に入って遊ぶことが苦手な児童もいるが、のびのびタイムだけは、時間を忘れてしまうほど熱中して楽しく遊ぶことができ、友達関係の改善につながった。
- ・福祉体験は、高齢者や視覚障害者の方々にはどんな声かけや手助けができるか考える切っ掛けになった。また、アイマスク体験では、道案内をする場合に相手の立場に立って声かけをする大切さを学ぶことができた。地域に住む一人として子どももお年寄りもそして障害者も皆で助け合って生活していきたいという感想をもつ児童もいた。
- ・民泊家庭との交流では、一年を通じた交流で心のふれ合いが深まっていく様子が伝わってきた。思いやりの心とは、相手のことを考えたときに自然に生まれてくるものだという事を一年間のふれ合いを通して学ぶことができた。

II 今後の課題

教育活動全体を通して、一人一人がお互いの良さを認め合い、自他共に大切にできる児童を育成していきたい。特に道徳においては、自己を見つめ、道徳的実践力を身に付けていけるように指導に力を入れたい。また、間もなく新校舎が完成予定なので、新たな人権コーナーの設置や人権尊重の視点に立った学習環境づくりなど環境の整備に取り組んでいきたい。

III 人権コーナー設置の様子

